



「未来授業」で中学生に自衛隊の仕事を紹介

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、12月6日（水）、浜松市立三ヶ日中学校（浜松市北区）において行われた「未来授業」に参加した。

これは、一般社団法人未来学校の協力により行われ、地域の多種多様な職業人を講師として学校に招き、授業を通して生徒に将来像を考えてもらうことが目的。

同校では今回が初めての開催であり、「さまざまな業種の講師から話を聞き、将来の目標を持つきっかけになるように」との学校側の希望で、2年生の生徒が4、5人のグループに分かれてそれぞれ特色ある授業を受けた。

静岡地本からは浜北募集案内所の広報官一人が参加し、自衛隊の任務や仕事の魅力とともに、仕事の種類の豊富さなどを紹介した。

最初は緊張した面持ちだった生徒たちも自己紹介を通して和やかな雰囲気となり、広報官が語る自衛隊での経験や仕事内容に真剣に耳を傾けていた。授業終盤の質疑応答では、生徒から「自衛隊に就職したきっかけが知りたい」「自衛隊でも医者になれることを初めて知った」といった質問や感想が聞かれた。

最後に、広報官から「進路についてやりたいことや目標を見つけ、それに向かって努力を積み重ねることが大切」と生徒たちにアドバイスとエールを送った。

静岡地本は、今後もこのような直接学生とふれあう機会を通じ、自衛隊の任務や活動内容の重要性について広く理解を深めてもらうとともに、将来自衛官を目指すきっかけとなるように広報活動に努め魅力を発信していく。



自己紹介の様子



質問をする生徒の様子

浜松の防災事業で災害派遣活動を紹介

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、12月10日（日）、浜松市ギャラリーモール「ソフモ」（浜松市）において行われた「みちのくフェスタ」に参加し、災害派遣活動の紹介など広報活動を実施した。

このイベントは、浜松商工会議所青年部と仙台商工会議所青年部、大船渡商工会議所青年部の共同防災事業として、東日本大震災の教訓を生かし「地震・防災を考えよう」をテーマに、浜松・仙台・大船渡各地の物産展や震災語り部による防災講話などが開かれ、約3500人が訪れた。

自衛隊からは、静岡地本が害派遣活動パネルの展示、自衛官採用制度説明会、DVD上映、隊員が着用する迷彩服の試着体験などを実施した。来場者は、災害派遣での自衛隊の活動や被災地の状況などが克明に記録された写真パネルやDVDを熱心に見つめ、防災への関心を高めていた。

また、板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊第4中隊が、災害時の生活支援で活用される炊事車両を使用したカレーの炊事展示と無料試食及び被災地の環境下でも迅速な機動が可能な軽装甲機動車の展示を実施した。若者や家族連れは災害派遣活動で行われる自衛隊の炊き出し能力を理解するとともに、迷彩服や制服を試着して自衛官になった気分が軽装甲機動車や隊員との記念撮影を楽しんでいた。

その他、会場に静岡地本の「しずぼん」、浜松ご当地ゆるキャラ「出世大名家康くん」と「出世法師直虎ちゃん」が揃って登場した際には、多くの来場者が駆け寄り家族で写真撮影をする姿が見られた。

静岡地本は、今後もこのような地域防災などにおける広報活動を積極的にを行い、自衛隊への理解促進に努めていく。



浜松の防災事業で災害派遣活動を紹介

